

「びわ湖の日」の取組について

琵琶湖の保全及び再生に関する法律において、琵琶湖が国民的資産と位置付けられ、今年度から「琵琶湖保全再生計画」に基づく取組を始めたところである。これを機に、より多くの県民が琵琶湖に思いを寄せ、琵琶湖とのつながりをさらに深めていただくため、「びわ湖の日」の取組の充実が必要である。

また、休日に関する議論からも、これまでの関係者の意見等を踏まえると、まずは、より多くの県民が「びわ湖の日」を認知し、琵琶湖に関わることが必要である。

このため、これまでから取り組んでいる「びわ湖の日」の活動について、平成30年度は森・川・里・湖のつながりを意識し、事業展開を図るとともに、効果的な情報発信を行うことにより、さらなる充実を図る。

併せて、市町、学校および企業等の理解と協力が必要である休日に関して、様々な課題への具体的な対応方策などについて、さらに関係者と丁寧に議論する。

1 県政モニターアンケートの結果概要について

平成29年8月9日から8月25日までの間、今後の取組の参考とするため、県政モニター399人に対し、アンケートを実施し、346人から回答を得た。

(回収率：86.7%、公表：平成30年1月16日)

(1) 「びわ湖の日」について

① 「びわ湖の日」を知ったきっかけについて

「各種メディア(新聞・テレビ・広報誌・インターネット)」と回答した人の割合が最も高く(74.2%)、「学校の授業や活動」と回答した人の割合は最も低かった(4.3%)。(複数回答)

② 「びわ湖の日」が定められた背景の認識について

「びわ湖の日」が定められた背景について「知っていた」と回答した人の割合は60.4%であった。

⇒ 従来の取組に加え、学校における授業や活動をさらに充実することに理解を求める。

(2) 今年、「びわ湖の日」を意識し、どのように琵琶湖に関わったかについて

「特にない」と回答した人の割合が最も高く(36.7%)、次いで「清掃などのボランティア活動に参加した」と回答した人の割合が高かった(31.8%)。(複数回答)

⇒ 琵琶湖に関わる多様な体験や活動、場所等にいざなう取組を行う。

(3) 「びわ湖の日」の過ごし方について

休日となった場合の過ごし方として、琵琶湖に関わることについて関心が「ある」と回答した人の割合は65.6%であり、琵琶湖との関わり方については、「琵琶湖の景色を楽しむ」(43.2%)、「琵琶湖に関わる清掃活動をする」(24.7%)、「琵琶湖で遊ぶ」(24.2%)と回答した人が多かった。

⇒ 琵琶湖に関わる多様な体験や活動、場所等にいざなう取組を行う。

(4) 「びわ湖の日」が定められた背景の認識と琵琶湖に関わることとの関係について

休日となった場合、「びわ湖の日」が定められた背景を「知っていた」と回答した人で、琵琶湖に関わることに関心が「ある」と回答した人の割合は69.9%、「びわ湖の日」が定められた背景を「知らなかった」と回答した人で、琵琶湖に関わることに関心が「ある」と回答した人の割合は59.1%である。

⇒ 琵琶湖に関わることに関心を持っていただくため、「びわ湖の日」が定められた背景を知ることができる取組を行う。

(5) 「びわ湖の日」の一斉清掃活動への参加について

清掃活動が行われてきたことを「知っていた」と回答した人で、「参加したことがある」と回答した人の割合は54.7%であった。

⇒ 包括的連携協定を締結している企業や大学へ参加を呼びかける。

(6) 琵琶湖との関わりを最も感じる時期について

「すべての季節」(44.8%)や「夏」(32.4%)と回答した人の割合が高かった。

⇒ 特定の日に関わらず琵琶湖との関わりを感じていることから、一定の期間を設定した取組を行う。

2 「びわ湖の日」の取組の課題について

本年度、市町、経済団体および教育関係者に対する意見聴取や県政モニターアンケート等から以下の課題を把握した。

- これまで以上に、より多くの県民が琵琶湖に関心を持ち、関わる必要がある。
- 「びわ湖の日」の取組は、湖辺だけでなく、水源である森林も含めて考える必要がある。
- 「びわ湖の日」の取組は、一斉清掃のイメージが強いので、多様な取組が必要である。
- 「びわ湖の日」について、下流域の住民も含めて認知度を向上する必要がある。
- 学校教育において「びわ湖の日」が定められた歴史的な背景や意味について、より理解を深める取組が必要である。

3 平成30年度「びわ湖の日」活動推進事業について

県民のライフスタイルは多様化し、琵琶湖との関わり方やその時間は一人ひとり異なる。誰もが自分に合った方法で、「びわ湖と出会う（つながる）特別な一日」を創出できるように、7月1日「びわ湖の日」を起点に概ね8月11日「山の日」までを琵琶湖に関わる重点取組期間とし、(仮)「この夏！びわ活！」(注)をキャッチフレーズに、新たな事業展開を図る。また、多様な主体と連携して琵琶湖に関わる体験、活動、場所等にいざなうための情報を一体的かつ効果的に発信する。

(注)「びわ活」とは「びわ湖の日」の取組を一層盛り上げていくため、琵琶湖の保全再生や暮らしと湖の関わりとの再生に係る取組や活動を総称したキーワード

【資料4頁参照】

4 休日に関する課題について

本年度、関係者等の意見を踏まえ、庁内検討チームにおいて、課題を整理し、取組例について検討してきたが、平成30年度は、これを基に各分野における具体的な対応方策について、さらに関係者と丁寧に議論する。

(1) 行政

(課題)

- 自治体閉庁に伴う住民生活への影響を小さくする工夫と住民の理解と協力が必要である。

(取組例)

- 窓口業務や許認可等の業務のあり方について、他の自治体の例も参考に実務担当者で研究・検討する。

(2) 教育

(課題)

- 学校現場では、授業時間の確保が課題、特に、7月上旬は、学校行事が集中する時期であり、「びわ湖の日」を休業日とすることは難しい。
また、小学校低学年や特別支援学校の児童生徒の中には、特別な対応が必要な場合がある。

(取組例)

- 学校行事を精選することや小学校低学年や特別支援学校の児童生徒の対応を調整することにより、各学校の年間計画を作成することができないか、校長会や市町教育委員会等とともに関係者と議論する。

(3) 企業

(課題)

- 経済活動は全国に及んでいるので、県内の事業所だけを休みにすることは難しい。

(取組例)

- 経済団体との意見交換の場や事業所等へ配布する広報紙面等を活用し、企業等に対して「びわ湖の日」の取組について理解と協力を求める。
また、県民の皆さんが琵琶湖に関わっていただく機会を増やすため、企業等に対して、琵琶湖に関わる活動に参加される方に、年次有給休暇等の取得を奨励していただくよう呼びかけることを検討する。

平成30年度「びわ湖の日」活動推進事業

事業の趣旨・目的

7月1日「びわ湖の日」

「琵琶湖をきれいにしよう」、「豊かな琵琶湖を取り戻そう」、「琵琶湖にもっと関わろう」の3つの呼びかけにより、環境保全への理解と認識を深め、保全活動への参加意欲を高める。

一段高めるための展開

(仮) **この夏！びわ活！** をキーワードに、概ね7/1～8/11の期間に行う多様な琵琶湖関連事業

暮らしと湖の
関わり再生

1. 民間企業・大学・下流域との連携(継続実施)

「琵琶湖にもっと関わろう」の視点から

(1) 包括連携協定締結事業者等との協働取組
 ・県産食材を中心にした関連商品の開発・販売 (セブンイレブン、平和堂)
 ・ポスター掲出 (包括連携事業者、環境関連事業者等)

(2) 包括連携協定大学との連携
 拡充
 ・ポスター作成 1000枚→2500枚 (成安造形大学)
 ・連続講座開催 各校3回程度 (立命館大学、龍谷大学)

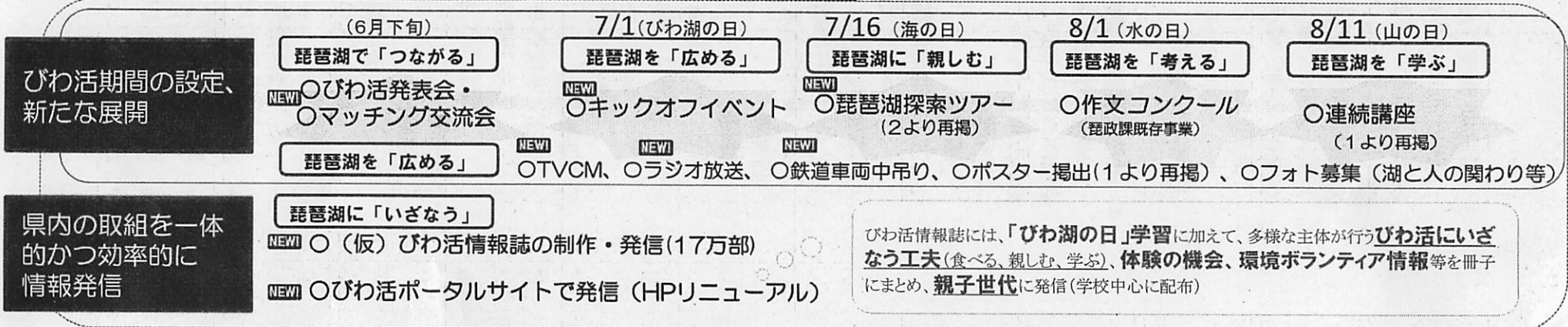
(3) 下流域への取組
 ・学校との連携 (私立東山中学校 等) 出前講座の開催 3回程度…琵琶湖博物館等と連携
 ・下流域府県の市町(京都市等)との連携 展示等
 ・ポスター等掲出 (包括連携協定事業者)

【新】2 若い世代へのアプローチ

琵琶湖探索ツアーの実施 県内外の親子を対象に環境学習船を活用した琵琶湖体験クルーズを実施

【総】3 「びわ湖の日」の新展開

県民のライフスタイルは多様化し、琵琶湖との関わり方やその時間は一人ひとり異なる。誰もが自分に合った方法で、「びわ湖と出会う(つながる)特別な一日」を創出できるように、びわ湖の日を起点とした一定の「びわ活」の期間を設定し、多様な主体と連携して琵琶湖に関わる体験、活動、場所等にいざなうための情報を一体的かつ効果的に発信する。また、その期間中に、びわ湖の日の新たな展開に向け事業を実施する。



県政モニターアンケートの結果(抜粋)

- ・調査対象 県政モニター 399人
- ・回答数 346人
- ・回収率 86.7%
- ・調査期間 平成29年8月9日～8月25日
- ・公表日 平成30年1月16日

○性別

項目	人数(人)	割合
男性	212	61.3%
女性	134	38.7%

○年代

項目	人数(人)	割合
10・20歳代	24	6.9%
30歳代	40	11.6%
40歳代	86	24.9%
50歳代	55	15.9%
60歳代	88	25.4%
70歳以上	53	15.3%

○「びわ湖の日」を知ったきっかけについて(複数回答) ○「びわ湖の日」が定められた背景の認識について

項目	人数(人)	割合
各種メディア(新聞・テレビ・広報誌・インターネット)	190	74.2%
清掃などのボランティア活動	102	39.8%
昔から知っている	52	20.3%
大型商業施設やコンビニ	20	7.8%
参加したイベント	14	5.5%
学校の授業や活動	11	4.3%

項目	人数(人)	割合
知っていた	209	60.4%
知らなかった	137	39.6%

○今年、「びわ湖の日」を意識し、どのように琵琶湖に関わったかについて(複数回答)

項目	人数(人)	割合
特にない	127	36.7%
清掃などのボランティア活動に参加した	110	31.8%
環境に配慮した行動をしようと心がけた(節電、食品ロスの削減など)	69	19.9%
琵琶湖に遊びに行った	63	18.2%
琵琶湖の将来を考えた	59	17.1%
琵琶湖のことを学習した	50	14.5%
「びわ湖の日」関連商品を購入した	45	13.0%

○「びわ湖の日」が休日となった場合、琵琶湖に関わることへの関心について

項目	人数(人)	割合
ある	227	65.6%
ない	119	34.4%

○「びわ湖の日」が休日となった場合の過ごし方について

※「びわ湖の日」の休日の過ごし方として、琵琶湖に関わることに関心がある人に対する設問(対象人数227人)

項目	人数(人)	割合
琵琶湖の景色を楽しむ	98	43.2%
琵琶湖に関わる清掃活動をする	56	24.7%
琵琶湖で遊ぶ	55	24.2%
湖魚を食べる	14	6.2%

○「びわ湖の日」の県内一斉清掃活動について

項目	人数(人)	割合
知っていた	258	74.6%
知らなかった	88	25.4%

○「びわ湖の日」の一斉清掃活動に参加した経験について

※県内一斉清掃活動を知っていた人に対する設問(対象人数258人)

項目	人数(人)	割合
参加したことがある	141	54.7%
参加したことはない	114	44.2%
わからない	3	1.2%

○琵琶湖との関わりを最も感じる時期について

項目	人数(人)	割合
すべての季節	155	44.8%
夏	112	32.4%
特にない	39	11.3%
春	21	6.1%
冬	8	2.3%
秋	6	1.7%
「びわ湖の日」(7月1日)	5	1.4%